

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：11401

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05658

研究課題名（和文）半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的紐帯の変化に関する実証的研究

研究課題名（英文）Study of social network dynamics at oases of the Arabian Peninsula and the Sahara Desert over the past half century

研究代表者

縄田 浩志（Nawata, Hiroshi）

秋田大学・国際資源学研究所・教授

研究者番号：30397848

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：西アジア・アラビア半島と北アフリカ・サハラ沙漠のオアシスでおよそ半世紀前から、日本の文化人類学者・人文地理学者が実施した研究内容と現地収集資料を発展的に継承することにより、乾燥地アラブ・イスラーム社会における景観変遷・社会変化を「社会共通資本としての水資源」に注目して比較検証した。その結果、土地利用、生業形態、資源管理、物質文化のそれぞれの特徴とそれらの関係性には「生活様式と資源利用の世代間ギャップ」を伴うことが浮き彫りとなった。にもかかわらず「弱い社会的紐帯の強さ」は、半世紀に及ぶミクロとマクロの両レベルをつなぐ相互作用下で、全体に波及する社会連携を牽引しうることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的な特色と社会的な意義は、社会的紐帯に関する理論的・実証的研究を、現地住民との共同作業を通じて推進していくことにより、1) 研究成果の日本語、英語、現地語（アラビア語）によるアウトリーチ、2) 理論的考察に基づく社会開発への提言、3) 展示活動を通じた研究成果の現地社会への還元という形で、実践としても「弱い社会的紐帯」を強める社会実装を行った点にある。例えば、日本で開催した国際シンポジウム「サウジアラビアと日本をつなぐ文化交流のこれから」には、調査対象であった現地住民が自費参加し、調査対象地のアラビア語新聞電子版によって広く報道される等、現地社会においても本研究成果は一定の評価を得た。

研究成果の概要（英文）：The project examined 50 years of livelihood and landscape changes experienced by people living in arid land oases in the Middle East and North Africa by comparing ethnographic datasets of photographs and maps collected by geographers/anthropologists with the results of follow-up studies 50 years later. The two ethnographic datasets are studies of: In Belbel oasis, Algeria, by Iwao Kobori, 1968-2010, and Wadi Fatima oasis, Saudi Arabia by Motoko Katakura, 1968-2003. Their data and ethnographic collections are valuable for tracing social network dynamics and changes in livelihood and landscape, especially in arid lands where spatiotemporal variations in natural and social environments are extremely high. Contemporary researchers have conducted follow-up research at two locations, which included identifying locations and individuals in the photographs, illustrating land-use patterns by analysing satellite images, and tracing the revival of costumes and changes in jewellery among women.

研究分野：人文学

キーワード：社会的紐帯の社会変化 西アジア・北アフリカ 乾燥地オアシス 民族誌写真の活用 半世紀の景観変遷 半世紀の水・土地利用 物質文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 弱い紐帯こそが全体的な社会統合をもたらす機能的優位性を持つことを提起した「弱い紐帯の強さ」理論（文献①）の着眼点のユニークさに刺激され、心理学、社会学、経済学、組織論など様々な分野で検証が進み、文化環境の違いが社会関係の機能性にもたらす影響の比較検討が開始されて久しい。ただし伝統的共同体や村落社会に着目する文化人類学や人文地理学の分野では、この理論は本格的に検討されてこなかった。

(2) 西アジア・北アフリカの乾燥地の伝統的共同体・村落社会における社会的紐帯は、高いクラスター性に小さい平均距離が合わさった「弱い紐帯の強さ」を持つ「スモール・ワールド」（文献②）を形成している。現代のアラブ・イスラーム社会が、貧困やテロリズムに代表される様々な社会問題を抱えている根本的な原因の一つは、社会基盤をなす高いクラスター性が壊れ、「弱い紐帯の強さ」を失ったからと考えられる。この仮説を検証するためには、西アジア・北アフリカ乾燥地の複数の伝統的共同体を対象として、時空間軸に沿って比較検証できる研究資料が必要である（文献③）。

(3) 先達の日本人フィールドワーカーが乾燥地アラブ・イスラーム社会で収集した現地調査資料を再検証して継承することができれば、半世紀に及ぶ土地利用、生業形態、資源管理、物質文化の変化を踏まえて、自然と社会・文化の相関関係の考察が可能となる（文献④）。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、アラビア半島とサハラ沙漠のオアシスでおよそ半世紀前から、日本の文化人類学者・人文地理学者が実施した現地収集資料と研究内容を民族誌写真の活用を中心として発展的に継承することにより、現代の社会的紐帯を、土地利用、生業形態、資源管理、物質文化との関係から把握する。特にグローバル化後の景観変遷・社会変化が具体的に現れると予想される「社会共通資本としての水資源」に注目する。そのことにより、乾燥地アラブ・イスラーム社会において劇的な変化を伴った現象として観察される世代間ギャップを浮き彫りにする現状理解と、ミクロレベルとマクロレベルの相互作用を明らかにする課題抽出を行い、「弱い社会的紐帯の強さ」を実証的に検証することを目的とする。

(2) 学術的な特色と社会的な意義は、社会的紐帯に関する理論的・実証的研究を、現地住民との共同作業を通じて推進していくことにより、1) 研究成果の日本語、英語、現地語（アラビア語）によるアウトリーチ、2) 理論的考察に基づく社会開発への提言、3) 展示活動を通じた研究成果の現地社会への還元という形で、実践としても「弱い社会的紐帯」を強める社会実装を目指していくことにある。

3. 研究の方法

(1) 西アジア・北アフリカ乾燥地の伝統的共同体・村落社会として、1) アルジェリア・サハラ沙漠のイン・ベルベル・オアシスと、2) アラビア半島サウジアラビアのワーディ・ファーティマ・オアシスの2つのオアシスにおいて、およそ半世紀前から実施された現地調査資料を再整理しつつ、自然／人文地理学、文化／環境人類学、民族考古学、生物学、開発学、歴史学、教育学の観点から、日本側・現地側の研究者が協力して継続調査を行う。特に写真の被写体であった村人もしくはその家族を探し出し、半世紀に及ぶ生活全般の変化について聞き取ることで、景観変遷と社会変化の関係性を把握し、社会的紐帯に関する分析を深めていく。

(2) 発展的に継承する現地調査資料とは、1) 人文地理学者・小堀巖（1924-2010）によるアルジェリア・サハラ沙漠のイン・ベルベル・オアシスにおける写真・地図・フィールドノート等の現地調査資料（1968-2010）、2) 文化人類学者・片倉もとこ（1937-2013）によるアラビア半島サウジアラビアのワーディ・ファーティマ・オアシスにおける写真・地図・スケッチ等の現地調査資料（1968-2003）である。現在との比較が可能なオアシスの植生や河川といった自然景観、衣食住や生業といった日常生活をとりまく生活景観にかかわる画像資料をデジタル化して、スケールや時間軸に即して整理していく。また日本と現地において保管されている生活用品のデータベースを作成し、実測図・写真・動画・3Dデータとして記録する。それらの資料整理・分析に基づき、土地利用、生業形態、資源管理、物質文化の特徴を浮き彫りにする（図1）。

4. 研究成果

(1) 半世紀前の現地調査資料としては、写真フィルム、映像フィルム、音声テープ、地図、スケッチ、フィールドノート、生活用品の存在を開始時において確認していたが、整理とデジタル化の作業を進める過程で、複数の課題に直面した。例えば、小堀巖資料におけるフィールドノートは基本的に年月日の記載があるため、写真撮影年月日との対応ができ、写真メモから撮影場所についても予測することが可能であった。一方、片倉もとこ資料においてはオリジナルのネガフィルム・ポジフィルムからプリントされた紙焼き写真と、メモやキーワードを記したカード類がセットで小袋に分類された状態であり、写真資料のおおかたの場所や撮影年は把握されても、年月日やノートとの対応が難しい場合が多かった。このように調査者によって異なる資料整理方法の傾向を把握しつつ、時空間軸に即した資料・情報の整理を進めた（文献⑤）。

(2) 1960年代に撮影されたCorona衛星写真と70年代以降に観測されたLandsat MSS、TM、ETM、ALOSといった衛星データを購入してサハラ沙漠・アルジェリアのイン・ベルベル・オアシスと、アラビア半島サウジアラビアのワーディ・ファーティマ・オアシスの2つのオアシスの土

地被覆解析をし、農地・植生域の増減や住居域の変化といったマクロレベルの景観変遷を復元していくことができた。同時に衛星画像と写真資料を対応させることにより、日干しレンガの平屋が点在していた地区において、焼成レンガやコンクリート製で鉄筋を使った建物が増えたことをマイクロレベルで把握した（文献⑥）。このようにしてイン・ベルベルを例として、オアシスのナツメヤシ灌漑農業における水供給（横穴地下導水、河川水、オーバフロー、湧水）とナツメヤシ栽培（自給栽培、換金栽培）との対応関係を類型化し、「社会共通資本としての水資源」に焦点をあてた研究論文を発表した（文献⑦）。ただし本研究期間中、アルジェリアの調査予定地域における海外安全情報の危険レベルが高く、日本側研究者が調査地を訪れて、現地側研究者と共に実施予定であった生物学・教育学分野の現地調査を行うことはかなわなかった。

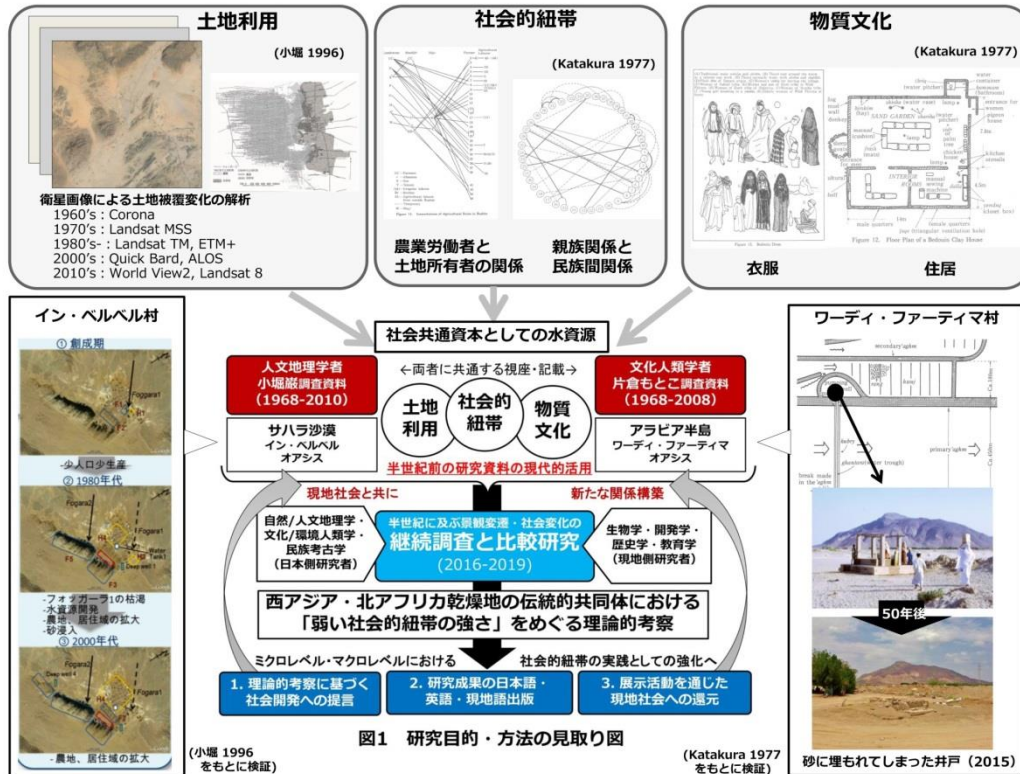


図1 研究目的・方法の見取り図

- (3) その一方、サウジアラビアのワーディ・ファータマ・オアシスにおいては研究代表者・研究分担者が海外共同研究者と共に現地調査を雨季・乾季に複数回実施することができ、半世紀を超える土地利用、生業形態、資源管理、物質文化の変化をマイクロレベルとマクロレベルで追うことができた。片倉もとこフィールド資料のうち分析の中心的な資料となったのは、およそ半世紀前に撮影された民族誌写真であった（文献⑧）。新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」（課題番号 16H06281、中核機関：国立民族学博物館）の支援による資料整理「地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS）」に採択され、「片倉もとこ『アラブ社会』コレクション」として、サウジアラビアを中心として中東地域で撮影された写真約 15,400 点のデジタル画像登録を行い、デジタル写真資料を公表する学術基盤の形成に寄与した。
- (4) 民族誌的な記録写真の活用により、景観復元のみならず、物質文化、資源管理、生業形態、土地利用等の変化をより詳細に実証的に分析することができた。物質文化においては、国立民族学博物館「中東地域民衆文化資料コレクション」を中心とするフォーラム型情報データベース」における片倉もとこ調査資料の約 400 件の標本資料のデータベース化に協力し、ウェブ公開された。特に特筆すべき研究成果は、現地の関連研究者を招いての熟覧と情報付加を行う過程で明らかとなった銀製指輪の構造と用途であった。日本で標本資料として登録されている筒状の装飾がついた特徴的な銀製指輪（標本番号 H0100424）は、筒状部分の中に玉が入れられ、振ると音を奏でる構造であった。現地調査により、その理由は女性が自分の存在を知らせ、男女間の不用意な摩擦を避ける社会的機能を持つことを明らかにした（文献⑨）。
- (5) 女性にまつわる物質文化として注目されるのは、金製・銀製の装身具の社会的意義の変化である。女性が身に着ける装身具は、芸術的な価値や歴史的・文化的意味に留まらず、危機的な状況に遭遇した時に市場で現金化して当座をしのぐための家族の財産にするといった社会的意義があったと考えられる。その代表格は、価値の安定性が高い貴金属の金であった。金という財産を身につけるのは女性に限定され、かつ他者が気づきにくい肌着のボタンにしたり歯に埋め込む等して財産保護を第一としたことが想定される。現在では、他者の目に触れる外側に華やかな金製の首飾り、腕輪、指輪をつけるのが好まれるようになった。一方、銀製の装身具は重たいこともあり、ほとんど利用されなくなる等、女性による財産保護の意味合いは薄れてきた。この点に「生活様式と資源利用の世代間ギャップ」が浮き彫りとなった（文献⑩）。

(6) 女性用飾面ブルグアは、目の部分にだけ長方形の穴をあけ、中央部分は布を山型に折合わせ出っ張らせる形状が、基本形として共通している。しかしその他のデザインや装飾は、民族集団または個人によって多種多様で個性にあふれている。ある女性は、半世紀前の20～30歳の頃に、隣村の他民族に特徴的な平銀糸入りブレード組みひもを使った飾面を気に入って大金で購入しファッションとして楽しんでおり、デザインや装飾のみならず、購入・装着についても女性個々人が自身の意思で選び取っていたことを聞き取った。色鮮やかな飾面をつける文化は現在では継承されていないため、写真資料と聞き取りを通じて当時の物質文化にまつわる社会状況が客観性と歴史性をもってはじめて把握された。このことは、物質文化と生活様式の変化、また女性が主体的な選択をする社会コンテクストの解明に大きく貢献した(文献⑪・⑫)。

(7) 男性と女性の衣服を比較すると、白を基調とした衣服は男性、黒や色柄を基調とした衣服は女性という点での差は明確である。ただし色合い以外の点では、男性用の衣服の形態や種類は概して変わっていないのに対して、女性用の衣服は外着・内着・肌着、頭・髪覆い、飾面ともに変化した点が多い(文献⑬・⑭)。伝統的な晴れ着マハーリードの生地裁ち方と縫製を記録・分析すると、一枚布を効率よく使い、裾はリサイクルしつつ、裏打ちしたキルトで棘から女性の足を守ることがわかった。また、黒い外着アバーヤが主流となったのは1980年代から90年代はじめてであることを写真との対応により把握し、外着はカラフルから黒へ、アバーヤの形は四角から袖・装飾がつく動きやすいものへと変化してきたことを記録・分析した(文献⑮)。このように飾面と外着の変化のエビデンスをもって、「黒のベールで顔まで覆い隠されている女性」という一面的なイメージの再考を提起した(文献⑯)。

(8) 「50年を経て一番の変化は何か？」という質問への女性による回答は、住居であった。一間だけの家やテントに住んでいたのが、幾部屋もある広い家に住むようになった点である(文献⑰)。その次にあげたのが「水くみに行かなくなるとよくなったこと」であった。長距離の移動には家畜の皮製の水袋、定住地では土製の水つぼを使うのが長く一般的であった。1960年代は生活用水を井戸でくんでいたが、配水車と水道の普及で井戸はやがて使われなくなった。井戸への水くみで女性が頭にのせて運ぶ容器は、1960年代にはブリキ缶へ、1970年代にはプラスチック製へと変化し、いまでは水道の蛇口をひねればよい。このような変遷を経て、女性にとって毎日の重労働であった水くみの必要はなくなった。写真資料をよりどころとして、物質文化、資源管理、生業形態の関連性の考察を格段に深化させることができた(文献⑱・⑲)。

(9) 「片倉もとこ『アラブ社会』コレクション」としてデジタル画像の登録を行った約15,400点のうち、4,000点以上に達する画像には人物が写し込まれていた。その利用、また公開・非公開について肖像権に関する個別事情を考慮した検討を積み重ねた。その結果、半紀前に写真の被写体であった村人もしくはその家族と新たな信頼関係を結ぶことにより、現地語アラビア語での書面への署名により写真一枚ごとの写真利用許諾を取得する方法を採用した。200点弱の人物写真一枚ごとに合意を書面で取りつけて展示・出版物で公開したことは、管見では世界初の先駆的事例と考えられる。会場パネルまた関連出版物において、デジタル加工技術を最大限活かして体の一部にぼかしを入れる等して、個人／家族の意思／遺志に寄り添うかたちで、女性を被写体とする写真を計33点掲載できた反面、本国サウジアラビア国内での公開合意に至ったのは18点と約半数に限定された(文献⑳)。写真一枚ごとまた個人・故人もしくはその家族の意思・遺志に差異がある理由は、調査を継続し今後焦点をあてるべき研究テーマと考える。

(10) 被写体の人びとに写真を確認してもらう過程で、調査・研究を飛躍的に前進させる印象的な出来事があった。その写真は建物を中心として村の様子を撮影した写真であったが、手前に少年の姿が認められた。その少年が自分であることに気づいた村人アリーは大いに喜び、写真を感慨深げに眺めて「この撮影場所を案内してあげよう」と積極的な提案をされた。当時の家屋は取り壊されたり大幅な増改築がほどこされ、面影をほとんど残していなかったが、この写真が撮影された場所を同定した。これをきっかけとして、その前後に撮影されたと考えられる村の景観の一連の写真の撮影場所を次々と同定できた。「50年後のアリーさんも一緒に写真を撮ってもよいか」とお願いすると快諾いただいた。アリー氏と出会い、新たな関係を構築することができたのは、半世紀前の一枚の写真が取り持った縁であり、日本人研究者とサウジアラビアの村人を繋ぐたった一本の新たな関係ではあるが、全体に波及する社会連携に優位性を持つこと、すなわち「弱い社会的紐帯の強さ」を実践として感じることができた(文献㉑)。

(11) 企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—「みられる私」より「みる私」」(2019年6月6日～9月10日に大阪の国立民族学博物館、また同年10月5日～12月22日に横浜ユーラシア文化館で開催)における中心的展示内容として、本研究成果をアウトリーチした。またその内容は『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—「みられる私」より「みる私」』邦文著書としてまとめ、日本語・英語・アラビア語での標本資料リストをつけた(文献㉒)。展示関連行事であるワークショップ、ギャラリートーク、講演会、また書籍出版を通じて、さらに現地で学んだ日本人学部学生とサウジアラビアからの留学生も関与させることにより、日本の一般社会と研究成果を共有することができた(文献㉓・㉔)。本研究終

了後に延期されたものの（新型コロナウイルス対応のため）、2020年度（予定）に秋田大学鉱業博物館特別展「銀と金からみるアラビア衣装—カラフル、リバイバル、リサイクル」また「アラビア女性のおしゃれとおもてなし—化粧とお香、デーツとコーヒー文化」としても、本研究成果の発展的なアウトリーチが計画されている（文献⑳）。

(12) 片倉もとこ記念沙漠文化財団「アラムコ・片倉沙漠文化協賛金」との連携の上に実施した現地調査は、調査対象国であるサウジアラビアにおいて文化遺産の発展的継承による新たな文化資源の発掘、理論的考察に基づく社会開発への提言として評価され（文献㉑）、サウジアラビア国立博物館において研究代表者は招待講演を行った（2019年9月26日）。

(13) 調査対象地で発刊されている6つのアラビア語新聞（アルリヤド紙、SABQ紙、オカーズ紙、アルワタン紙、アルヤウム紙）等の電子版によって、国際シンポジウム「サウジアラビアと日本をつなぐ文化交流のこれから」（横浜情報文化センター、2019年11月17日開催）での口頭発表内容をもとに本研究結果は広く報道された。現地住民の一人ファワーズ氏が自費で来日しシンポジウムの議論を盛り立てたこと等、新たな信頼関係の構築に基づいた「弱い社会的紐帯」を強める社会実装の価値が、現地社会においても一定の評価を得た（文献㉒）。

<引用文献>

- ① Granovetter, M. The Strength of Weak Ties, *American Journal of Sociology* 78: 1360-1380, 1973.
- ② Milgram, S. The Small-world Problem. *Psychology Today* 1: 62-67, 1967.
- ③ 縄田浩志「砂漠誌：これからの砂漠研究を切り拓くために」縄田浩志・篠田謙一編『砂漠誌—人間・動物・植物が水を分かち合う知恵』東海大学出版部, pp. 404-416, 2014.
- ④ 縄田浩志「サハラ沙漠のオアシス, イン・ベルベル研究の回顧と展望」石山俊・縄田浩志編『アラブのなりわい生態系2 ナツメヤシ』臨川書店, pp. 189-199, 2013.
- ⑤ 渡邊三津子・古澤文・遠藤仁・縄田浩志「片倉もこのフィールド資料を読み解く」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—「みられる私」より「みる私」』河出書房新社, pp. 32-33, 2019.
- ⑥ 渡邊三津子・縄田浩志「半世紀の変化—画像資料からみる」前掲書, 22-23頁, 2019.
- ⑦ 石山俊「サハラ・オアシスにおける灌漑水供給システムとナツメヤシ栽培」『砂漠研究』29(1): 21-28, 2019.
- ⑧ 縄田浩志「写し撮られた生活世界」縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—「みられる私」より「みる私」』河出書房新社, pp. 36-37, 2019.
- ⑨ 遠藤仁・アナス・ムハンマド・メレー「指輪の構造と社会的機能」前掲書, pp. 108-109, 2019.
- ⑩ 縄田浩志・遠藤仁「女性だけが身に着ける金, コイン, 貝」前掲書, pp. 114-116, 2019.
- ⑪ 郡司みさお・藤本悠子・遠藤仁・アナス・ムハンマド・メレー「飾面のデザインと飾り」前掲書, pp. 96-97, 2019.
- ⑫ 藤本悠子「託された遺品」前掲書, pp. 158-159, 2019.
- ⑬ 縄田浩志・アナス・ムハンマド・メレー「男性の衣服」前掲書, pp. 68-69, 2019.
- ⑭ 郡司みさお・藤本悠子・アナス・ムハンマド・メレー・縄田浩志「女性の衣服—半世紀前と現在」前掲書, pp. 70-73, 2019.
- ⑮ 郡司みさお・藤本悠子・渡邊三津子「縫製—リサイクル」前掲書, pp. 84-85, 2019.
- ⑯ 縄田浩志「はじめに—一般的なイメージ vs 等身大の生活世界」前掲書, p.11, 2019.
- ⑰ 渡邊三津子・遠藤仁「家屋のタイプ—移動と定住」前掲書, pp. 54-55, 2019.
- ⑱ 河田尚子・藤本悠子・縄田浩志「50年で一番変わったことは？」前掲書, pp. 34-35, 2019.
- ⑲ 縄田浩志・遠藤仁「水くみの道具にみる半世紀の変化」前掲書, pp. 118-119, 2019.
- ⑳ 縄田浩志・遠藤仁・渡邊三津子・石山俊・藤本悠子・アナス・ムハンマド・メレー「写真の利用許諾をとる」前掲書, pp. 38-39, 2019.
- ㉑ 縄田浩志「一枚の写真が取りもつ縁」前掲書, pp. 40-41, 2019.
- ㉒ 縄田浩志編『サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年—「みられる私」より「みる私」』河出書房新社, 182p, 2019.
- ㉓ Nawata, H. Exploring 50 Years of Livelihood and Landscape Change in Wadi Fatima, Saudi Arabia: Ethnographic Collections of Motoko Katakura, a Japanese Female Anthropologist. *MINPAKU Anthropology Newsletter* 49: 11-12, 2019.
- ㉔ 縄田浩志「企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」関連イベントを通じて—大学生が伝える、現地で学んだ中東文化のいま」きざし4: 16, 2020.
- ㉕ 縄田浩志「銀と金からみるアラビア衣装」『鉱業博物館だより』17: 2-4, 2020.
- ㉖ 縄田浩志「ワーディ・ファーティマで本格的に再調査：国を豊かにする“文化”資源の可能性」季刊アラブ 166: 23-24, 2019.
- ㉗ 「《片倉もとこ》とサウジ・日本文化関係の興隆」アルリヤド紙電子版（アラビア語, 2019年11月24日）<http://www.alriyadh.com/1789436>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 石山俊	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 サハラ・オアシスにおける灌漑水供給システムとナツメヤシ栽培	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沙漠研究	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.14976/jals.29.1_21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計56件（うち招待講演 5件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 渡邊三津子・遠藤仁・郡司みさお・藤本悠子
2. 発表標題 半世紀前に写しこまれた被写体の氏名・親族関係の同定をめぐる諸課題：ワーディ・ファーティマ古写真の利用許諾をめぐる
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2018年度第3回研究会，国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 オアシス農耕の現在：食への農学的アプローチ
3. 学会等名 人間文化研究機構「現代中東地域研究」「沙漠への適応と生活世界の形成 文理共創的視点から考える現代中東地域研究」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 半世紀前の現地収集資料と研究内容の社会的活用と共有化のプロセス アラブ・イスラーム社会における“弱い社会的紐帯の強さ”の実践として
3. 学会等名 沙漠誌分科会研究会/人間文化研究機構「現代中東地域研究」秋田大学拠点「サウディアラビア、ワーディ・ファーティマ半世紀前の記録とその活用に向けた方法論の検討」，大東文化会館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤仁
2. 発表標題 音を奏でるベドウィン・ジュエリー サウディアラビア, ワーディ・ファーティマ収集の銀製指輪
3. 学会等名 沙漠誌分科会研究会/人間文化研究機構「現代中東地域研究」秋田大学拠点「サウディアラビア、ワーディ・ファーティマ半世紀前の記録とその活用に向けた方法論の検討」, 大東文化会館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊三津子
2. 発表標題 古写真からみたサウディアラビア, ワーディ・ファーティマの日常景観の半世紀の変容 片倉もとこ調査写真の追跡から
3. 学会等名 沙漠誌分科会研究会/人間文化研究機構「現代中東地域研究」秋田大学拠点「サウディアラビア、ワーディ・ファーティマ半世紀前の記録とその活用に向けた方法論の検討」, 大東文化会館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 縄田浩志・郡司みさお・藤本悠子
2. 発表標題 “見られる女”より“見る女” サウジアラビア, オアシスに生きる女性たちの50年
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2018年度第2回研究会, 国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマで撮影された半世紀前の写真からわかること
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2018年度第1回研究会, 国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤仁
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマの物質文化：ジウムーム社会開発センター収蔵品から
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2018年度第1回研究会，国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊三津子
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマの景観・土地利用の変化について
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2018年度第1回研究会，国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマのオアシス農業について
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2018年度第1回研究会，国立民族学博物館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊三津子・石山俊・遠藤仁・縄田浩志
2. 発表標題 衛星画像と地図資料の比較によるサハラ・オアシスにおける半世紀の景観変化
3. 学会等名 日本沙漠学会第29回学術大会，石巻専修大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 アラビア半島オアシス生活の半世紀 現地社会への成果還元に向けて
3. 学会等名 地域研究画像デジタルライブラリ「デジタル写真データベースが拓く学術活動の未来 蓄積された学術資料をいかに活用するのか」, 一橋大学一橋講堂
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Nawata
2. 発表標題 Archives of the Motoko Katakura Middle East Collections
3. 学会等名 King Faisal Center for Research and Islamic Studies, Riyadh, Kingdom of Saudi Arabia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Nawata
2. 発表標題 Archives of the Motoko Katakura Middle East Collections
3. 学会等名 King Abdelaziz Center for World Culture (Ithra), Dhahran, Kingdom of Saudi Arabia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Nawata
2. 発表標題 Archives of the Motoko Katakura Middle East Collections
3. 学会等名 Social Development Center in Wadi Fatima, Jumum, Kingdom of Saudi Arabia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 コーヒー文化の起源・伝播・拡散：適応への人文的アプローチ
3. 学会等名 人間文化研究機構「現代中東地域研究」「沙漠への適応と生活世界の形成 文理共創的視点から考える現代中東地域研究」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Nawata
2. 発表標題 A case of archives in the Motoko Katakura Middle East Collections
3. 学会等名 International Symposium “Preservation of Cultural Heritage in the Arabian Peninsula” Akita University Center, NIHU Area Studies Project for the Modern Middle East, Jobun Hall, Yokohama
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 西アジア・北東アフリカのコーヒー文化に見る移動戦略
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2017年度第1回研究会，国立民族学博物館
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊三津子・古澤文・石山俊・遠藤仁・縄田浩志
2. 発表標題 複数時期の衛星画像からみたサウジアラビア，ワディ・ファーティマの土地被覆変化
3. 学会等名 日本沙漠学会第28回学術大会，千葉工業大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 「サハラ・オアシスのナツメヤシ文化と小堀巖先生写真アーカイブの検討」
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」2017年度第1回研究会, 国立民族学博物館
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略について
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nawata, Hiroshi
2. 発表標題 Exploring 50 Years of Livelihood and Landscape Change in Wadi Fatima, Saudi Arabia: Ethnographic Collections of Motoko Katakura, a Japanese Female Anthropologist
3. 学会等名 Special lecture, The National Museum, Riyadh, Kingdom of Saudi Arabia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 文理融合 / 異分野連携の中東地域研究：人文学がつなぐ研究と実践の事例より
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会公開講演会「中東地域における多元的資源観の醸成を目指して」秋田市にぎわい交流館AU, 秋田市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊三津子・遠藤 仁・石山俊・Anas Mohammed Melih・縄田浩志
2. 発表標題 サウディ・アラビア，ワーディ・ファーティマ地域の景観変遷復元を目的とした古写真の利用について 片倉もとこ調査写真の追跡調査（2018年12月～2019年1月）から
3. 学会等名 日本沙漠学会第30回学術大会，東京農業大学世田谷キャンパス，東京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 西アジア・北アフリカ乾燥地における半世紀前のフィールド調査資料を活かす
3. 学会等名 日本沙漠学会令和元年度秋季シンポジウム「半世紀前の写真資料の研究活用：サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域における再調査から」横浜情報文化センター，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志・西尾哲夫・竹田多麻子
2. 発表標題 企画展示「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年」について
3. 学会等名 国際シンポジウム「サウジアラビアと日本をつなぐ文化交流のこれから」横浜情報文化センター，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマ地域の景観，物質文化，社会の変化をたどる
3. 学会等名 国際シンポジウム「サウジアラビアと日本をつなぐ文化交流のこれから」横浜情報文化センター，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西尾哲夫・縄田浩志
2. 発表標題 サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年
3. 学会等名 第545回みんなばくウィークエンド・サロン 研究者と話そう，国立民族学博物館，吹田市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西尾哲夫・縄田浩志・遠藤 仁
2. 発表標題 物質文化から見た沙漠社会 アラビア半島オアシスの半世紀
3. 学会等名 第492回みんなばくゼミナール，国立民族学博物館，吹田市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 モロッコの自然環境，農業，物質文化：ナイル河岸，アラビア半島との比較の視点から
3. 学会等名 令和元年度第1回国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」，国立民族学博物館，吹田市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 中東の砂漠に生きる族長に学ぶ，リーダーシップ像 - 自然資源の稀少性・変動性・偏在性をどう乗り越えるか？
3. 学会等名 第20回秋田備蓄フォーラム，秋田石油備蓄株式会社男鹿事務所，男鹿市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 サウジアラビアのコーヒー文化
3. 学会等名 イベント「遊牧民のテントでアラビア文化を体験！」コーヒー体験講座，横浜情報文化センター，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志・坂田隆
2. 発表標題 オアシスを生き抜く知恵：企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」について
3. 学会等名 調査関係者による連続講座第1回，横浜ユーラシア文化館，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 縄田浩志
2. 発表標題 アフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略
3. 学会等名 令和元年度第2回国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」，国立民族学博物館，吹田市
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西尾哲夫・竹田多麻子・藤本悠子・縄田浩志
2. 発表標題 企画展示「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」に対する一般来館者の反応
3. 学会等名 令和元年度第2回国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」，国立民族学博物館，吹田市
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマにおける土地利用・農業の変容
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤仁
2. 発表標題 サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマにおける物質文化の記録保存
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 サハラ・オアシスにおけるナツメヤシ灌漑農業の現代的変容
3. 学会等名 令和元年度第1回国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」, 国立民族学博物館, 吹田市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 土地利用と農業の変容：現地調査による景観変遷の復元
3. 学会等名 日本沙漠学会令和元年度秋季シンポジウム「半世紀前の写真資料の研究活用：サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域における再調査から」横浜情報文化センター, 横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤仁
2. 発表標題 住居の変化：1960年代のニューモードのいま
3. 学会等名 日本沙漠学会令和元年度秋季シンポジウム「半世紀前の写真資料の研究活用：サウディ・アラビア、ワーディ・ファーティマ地域における再調査から」横浜情報文化センター，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤仁・郡司みさお
2. 発表標題 女性の衣装と装身具の魅力
3. 学会等名 調査関係者による連続講座第2回，横浜ユーラシア文化館，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本悠子・渡邊三津子
2. 発表標題 写真と画像から読み解く景観と暮らしの変化
3. 学会等名 調査関係者による連続講座第5回，横浜ユーラシア文化館，横浜市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤仁
2. 発表標題 ペルシア井戸と地下水利用から見た社会変化 インド，サウディ・アラビアの事例から
3. 学会等名 第5回大東西アジア研究会，大東文化会館，東京都
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊三津子・遠藤 仁・古澤 文・藤本悠子・石山 俊・アナス・ムハンマド・メレー・縄田浩志
2. 発表標題 片倉もとこフィールド調査写真を用いたサウディ・アラビア，ワー ディ・ファーティマ地域の景観変化の検証の試み
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会、駒澤大学、東京都
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 石山俊	4. 発行年 2017年
2. 出版社 総合地球環境学研究所	5. 総ページ数 5
3. 書名 「ドイツの名産地 - サハラのアオアシス都市ビスクラ」田中樹・宮崎英寿・石本雄大編『フィールドで出会う風と人と土 3』総合地球環境学研究所，pp. 29-33. デジタル出版	

1. 著者名 縄田浩志・渡邊三津子・アナス・ムハンマド・メレー・河田尚子・藤本悠子・遠藤仁・石山俊・西本真一・郡司みさお・片倉邦雄・坂田隆・竹田多麻子・古澤文・西尾哲夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 182
3. 書名 サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年：「みられる私」より「みる私」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. 新学術領域研究「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」 http://diplas.jp/index.html</p> <p>2. 国立民族学博物館フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/ifm</p> <p>3. 国立民族学博物館企画展「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年」 https://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/traveling/saudi_eurasia</p> <p>4. 横浜ユーラシア文化館企画展「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年」 http://www.eurasia.city.yokohama.jp/past-exhibitions/</p> <p>5. Nawata, H. Exploring 50 Years of Livelihood and Landscape Change in Wadi Fatima, Saudi Arabia. MINPAKU Anthropology Newsletter 49: 11-12, 2019. https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/publication/periodical/newsletter/past</p> <p>6. 「横浜でワーディ・ファーティマ文化を50年後に再検証」アルヤウム紙電子版（アラビア語、2019年11月21日） https://www.alyaum.com/articles/6223528/</p> <p>7. 「《片倉もとこ》とサウジ・日本文化関係の興隆」アルリヤド紙電子版（アラビア語、2019年11月24日） http://www.alriyadh.com/1789436</p> <p>8. 「秋大生5人、サウジで初の長期実習、産油国の生活、文化学ぶ」秋田魁新報電子版（2019年11月26日） https://www.sakigake.jp/news/article/20191126AK0016/</p> <p>9. 縄田浩志「企画展「サウジアラビア，オアシスに生きる女性たちの50年」関連イベントを通じて 大学生が伝える、現地で学んだ中東文化のいま」きざし4: 16, 2020. https://www.nihu.jp/ja/publication/kizashi</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石山 俊 (Ishiyama Shun) (10508865)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・プロジェクト研究員 (64401)	
研究分担者	遠藤 仁 (Endo Hitoshi) (80551548)	秋田大学・国際資源学研究科・客員研究員 (11401)	
研究分担者	渡邊 三津子 (Watanabe Mitsuko) (10423245)	奈良女子大学・大和・紀伊半島学研究所共生科学センター・協力研究員 (12501)	
研究分担者	古澤 文 (Furusawa Fumi) (50634812)	奈良女子大学・共生科学研究センター・協力研究員 (14602)	